

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）

項 目	金 額	内 訳
食 費	1500 円/日	
学用品購入費	-	
交 通 費	1000 円/週	通学のバスは無料、バンコクまでバス 200 円、タクシー2000 円ほど
そ の 他		
合 計	15000-20000 円/週	

お土産などを含めて週 2 万円ほど

(2) 派遣先周辺地域の治安等

学生街なので治安は悪くないが、タクシーなどはぼったくりなどがあるため grab などのアプリで配車するのがベター。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）

寮には消耗品は全くおいていないため、トイレットペーパー、シャンプー、石鹸などは調達する必要があります。ドライヤーも置いていなかった。

また、現地ではほとんど英語は通じないと思っておいたほうが良いため、翻訳アプリなどは必須。

5 実習について

実習診療科と主な内容 (リハビリテーション科)	
実習内容	① 外来診療の見学
	② 筋電図検査などの見学
	③ 理学療法・作業療法・言語療法などの見学
	④ 病棟患者の回診

(1) プログラム初日の行動

8:30 に他の学生と一緒にキャンパス集合。タマサート大の学生が集合場所に案内してくれ、そのまま実習開始。

(2) 実習詳細

・外来診療の見学

→糖尿病や内反足患者のインソール作成外来、慢性痛の鍼治療外来、小児神経疾患の発達外来などの診療を見学した。

・筋電図検査などの見学

→筋電図検査、神経伝導速度検査を見学した。数値の読み方などについてもレクチャーしてもら

った。

・理学療法、作業療法、言語療法などの見学

→理学療法では、機械を使ったトレーニングの様子やとかしたロウで温めて痛みを改善する温熱療法を見学した。作業療法では手先を使った器用な動きや生活の訓練の様子を見学した。言語療法では飲み込みや発声訓練の様子を見学した。

・病棟患者の回診

→他科に入院している患者やその家族に対し、現状のアセスメント、入院中のリハビリや退院後の生活についてのアドバイスなどを行う様子を見学した。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

Study and work schedule
For Mao Inami, Medical student Yr5, Yokohama City University, Japan

Date : 18-29 Mar 2024 (2 weeks)
Place : Rehabilitation medicine, Thammasat university Hospital.

1st Week

Time	Monday 18 MAR 2024	Tuesday 19 MAR 2024	Wednesday 20 MAR 2024	Thursday 21 MAR 2024	Friday 22 MAR 2024
08:00-09:00 U.	SDL / Ward round				
09:00-12:00 U.	Physical and Orthotic consult, Ekokon EDX lab, PO team/ Dr. Siranya (Contact: JAn, Tel: 056-5563343)	Teaching OPD: Gen rehab consultation, Base floor, Dusitphak building, Dr. Nawarat	Teaching OPD: Gen rehab consultation, Base floor, Dusitphak building, Dr. Patsavee	Teaching OPD: Base floor, Dusitphak building, Dr. Wichit	Teaching OPD: Base floor, Dusitphak building, Dr. Wichit
12:00-13:00 U.	Lunch	DM foot conference Dr. Siranya / Dr. Kwan	Lunch	Lunch	Lunch
13:00-16:00 U.	Teaching OPD: Pediatric neuro rehab, Base floor, Dusitphak building, Dr. Chuenchom	Teaching EDX: gen, Dusitphak building, Dr. Chuenchom	Stroke round & Grand round (PT) team meeting, Dr. Nawarat	Genetic round, Dr. Kwan	FEES/TMS, Dr. Nawarat

Miss Moo / YCU

2nd Week

Time	Monday 25 MAR 2024	Tuesday 26 MAR 2024	Wednesday 27 MAR 2024	Thursday 28 MAR 2024	Friday 29 MAR 2024
08:00-09:00 U.	SDL / Ward round				
9:00-12:00 U.	Physical Therapy: PT center, 1 st fl, Kitiwatana building, PT team / Dr. Patsavee	Teaching EDX: 2 nd fl, Dusitphak building, Dr. Siranya	Teaching OPD: DM shoe clinic, Base floor, Dusitphak building, Dr. Siranya / Dr. Kwan	Teaching OPD: Base floor, Dusitphak building, Dr. Kwan	Teaching OPD: Base floor, Dusitphak building, Dr. Wichit
00-13:00 U.	Lunch	DM foot conference Dr. Siranya / Dr. Kwan	Lunch	Lunch	Lunch
0-16:00 U.	Speech Therapy: Base floor, Dusitphak building, Speech team/ Dr. Chuenchom	Teaching OPD: PO clinic, Base floor, Dusitphak building, Dr. Siranya / Dr. Kwan	SDL	Teaching OPD: Cardiac Rehab, Cardiac center, 2 nd fl, Dusitphak building, Dr. Patsavee	Summative Evaluation & Feedback***

(4) 休日の過ごし方

大学周辺にはあまり観光できる場所がないため、バンコクに行くことが多かった。バンコクまではバスで1時間弱、200円程度。

(5) 留意事項等 (予習しておくこと、困ったこと、持参するとよいもの等)

医療英語や見学する診療科に関する検査や疾患などについては勉強しておくことよい。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

リハビリ科に対する解像度と医療英語へのモチベーションが上昇した2週間であった。日本でまだリハビリ科を回っていない状況でリハビリ科への留学へ行ったため、リハビリ科の扱う疾患の幅広さや、患者の抱える問題に対するアプローチの豊富さなどにとっても感銘を受けながら実習に臨むことができた。

さらに、多職種連携の重要性についても学んだ2週間であった。リハビリ科では、医師だけでなく、理学療法士/作業療法士/言語聴覚士/義肢装具士など多くの職種が協力して治療を行っていく。カンファレンスや日々のスタッフ間のコミュニケーションなどから、各職種がそれぞれの視点から情報を共有しつつ治療の方針を立てていく様子を間近で体感できた。またそれだけでなく、実際の理学療法や作業療法の様子、義肢作成の様子などについても見学することができ、さまざまな職種の仕事内容についても知ることができた。とくに、義肢作成に関してはどのように義足が作られるのか全く見当がつかなかった私にとって、石膏での型取りや何度も義足を調整しながらフィットするものを作成していく過程を知り、患者の手元に義足が届くまでにこれほどまでの過程があったのかと驚かされた。

また、日本とタイのリハビリ科で扱う疾患の違いについても垣間見ることができた。たとえばタイのリハビリ科では毎日のように慢性痛に対する鍼治療外来が行われており、高い治療の効果が認められている。しかしながら日本では鍼治療は鍼灸院など病院以外の場所で行われることが一般的であり、慢性痛に対しての治療法はあまり確立していないといった違いを実感した。

どのスタッフの方も、先生方も忙しい中丁寧な患者の背景情報やタイ語での患者の会話の翻訳などを教えてくれ、本当に吸収できることの多い2週間であった。医療英語と日本で学んだ医学の知識を結びつけることはなかなか難しかったが、今回の経験を活かし、さらに勉強を続けていきたい。

(2) 今後の展望

前述した通り、今回の実習を経てリハビリ科への解像度がとても向上し、将来へのモチベーションを高めることができた。また、医療英語が堪能なタイの医学生との交流も多く、私自身も彼らと交流する中で医療英語をもっと使いこなせるようになりたいという思いを抱くようになった。

そのため今後は、日々の医学の勉強に日本語だけでなく英語も取り入れていき、今回上手く医療英語が話せなかった不甲斐なさを払拭できるように勉学に励んでいきたい。

(3) 後輩へのメッセージ

思い切って今自分のいる日本から海外へ飛び出してみると、新しい発見があると思います。頑張ってください。

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書（和文）

氏名 N. S. 学年（留学当時） 5年

実習期間 2024年 3月18日（月） ～ 2024年 3月29日（金）

留学先機関名 タマサート大学

1 プログラム内容について

- (1) 参加した留学プログラム
・海外クリニカル・クラークシップ

2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	羽田	10:35	現地着	スワンナプーム	15:40
復路	現地発	スワンナプーム	15:10	日本着	羽田	22:50
到着空港から実習（宿泊） 地までの移動手段・時間・ 金額	移動手段（ 車（送迎） ） 所要時間：（ 1 ）時間 金額目安：（約 0 ）円					

3 宿泊先について

滞在期間	2024年 3月 16日～ 3月 30日	
宿泊タイプ	寮	2人部屋 共有設備：（コインランドリー）
実習場所までの距離	（ バス ）で（ 20 ）分	
宿泊費用	2,5万円 /1ヶ月	
住所	[REDACTED]	

4 生活について

- (1) 生活費（宿舍費を除く）：二週間

項目	金額	内訳
食費	20000円	朝、昼、夕、飲み水等
学用品購入費	500円	筆記用具
交通費	5000円	タクシー
その他		
合計	25500円	

(2) 派遣先周辺地域の治安等

特に心配は必要ありませんでした。寮の前に野犬が数匹寝ていますが、攻撃性はありません。信号のない横断歩道が多いため、車の通りを確認してから渡る必要があります。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）

最低気温 29℃、最高気温 38℃という気候ですので、日焼け止めとボディーシートは持参することをお勧めします。また、寮にはタオル・ドライヤーがありませんでした。

5 実習について

実習診療科と主な内容（小児科・小児外科）	
実習内容	① 回診参加（2時間）
	② 病棟処置実習（NICU・小児感染症病棟）
	③ 帝王切開時のNCPR（NICU）
	④ 学生講義参加（2時間）
	⑤ クルズス（1時間）
	⑥ オペ見学（小児外科）

(1) プログラム初日の行動

8:30に大学にて職員の方と合流し、新生児病棟に案内していただき新生児科の教授に挨拶をしました。その後、病棟の医師や看護師の方々との挨拶を済ませたのち、施設案内をしていただきました。

実習一週目は新生児集中治療室（NICU）&新生児ハイリスク病棟で実習を行うという事になり、約二時間の回診に参加し、インターンの医師4名に大学を案内していただきながら昼食を食べました。

午後は、ハイリスク出産の帝王切開があったため、医師数名と手術室に出向き、蘇生準備や新生児の状態評価を行いました。夕方ごろに再度教授とお会いし、この実習期間に何がしたいのかや、何に興味があるのかをお伝えしました。

(2) 実習詳細

【一週目】

新生児集中治療室（NICU）&新生児ハイリスク病棟

DAY 1

- ✓ 朝回診参加（二時間）
- ✓ ハイリスク出産の帝王切開立ち合い、NCPR、状態評価実施
- ✓ クルズス（NPCR）
- ✓ 教授挨拶

DAY 2

- ✓ 医学部授業受講（医療統計学について）
- ✓ 朝回診参加
- ✓ 眼科医による新生児顔面外傷検査見学
- ✓ クルズス（母乳栄養、新生児の状態の良し悪しの判断について）

DAY3

- ✓ 朝回診参加
- ✓ 入院患者の心雑音聴取（@ハイリスク病棟）
- ✓ 手術室見学
- ✓ 教授クルズス（先天性消化管閉鎖、核黄疸について）
- ✓ 夕回診参加

DAY4

- ✓ 小児科ケースカンファレンス参加
- ✓ 教授クルズス（NCPR で用いる手技について）
- ✓ クルズス（小児循環器、カテーテルによる PDA 閉鎖術について）
- ✓ 夕回診参加

DAY5

- ✓ 血液スメア観察
- ✓ クルズス（早産児成長曲線の作成について）
- ✓ 帝王切開立ち会い、NCPR 実施
- ✓ PICC カテーテル挿入
- ✓ 臍帯カテーテル挿入見学

【二週目】

小児感染症病棟&小児外科実習

DAY6

- ✓ 朝回診&カンファレンス
- ✓ 教授回診
- ✓ 入院患者診察
- ✓ 尿カテ挿入
- ✓ 新生児への腰椎穿刺見学

DAY7

- ✓ クルズス（血球計算について）
- ✓ 入院患者の身体診察見学
- ✓ サラセミア Day 参加（サラセミア患者との交流会）
- ✓ 教授回診参加

DAY8

- ✓ 出生後死亡患者に関するケースカンファレンス
- ✓ 教授回診参加
- ✓ 胸腔穿刺実施
- ✓ 胸水中の肺吸虫検索
- ✓ 新生児への C-line 作成見学（@PICU）

DAY9

- ✓ 医学科講義（母乳栄養について）
- ✓ 教授回診&ランチ
- ✓ 入院患者の換気補助
- ✓ 検体からの蟻虫検索
- ✓ 尿道カテーテル挿入
- ✓ 結核疑い患者に対する PDD テスト見学
- ✓ 夕回診参加

DAY10

- ✓ 小児外科オペ見学
 - ① 耳介前部膿瘍切除
 - ② 包茎に対する割礼術
 - ③ ヒルスシュプルング病に対する経肛門的遠位直腸プルスルー術

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	6:30	8:00	10:00	12:30	13:30	14:30	15:30	16:30
行動	起床	カンファ 講義参加	朝回診	昼食	処置見学	クルズス	教授回診	実習終了 帰宅

(4) 休日の過ごし方

休日は大学職員の方にアユタヤなど観光地を案内していただきました。また、平日は現地の学生や、横市に留学に来ていた友人と夕飯を食べに行きました。その他、寮のすぐ近くで1年に一回のタマサートフェア（学祭）が2週間開催されていたので、参加しました。

(5) 留意事項等（予習しておくことよいこと、困ったこと、持参するとよいもの等）

現地の学生は医療単語を英語で覚えており、処置の解説や回診は英語で説明して下さります。そのため、実習するかの疾患名や解剖用語は一通り英語で聞いて分かるように準備するとよいです。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

まず初めに、私が実習させていただいた小児科では、医師や看護師の皆さんがお忙しいのにも関わらずとても親切に教えてくださり、毎日大変勉強になりました。また、現地の学生も皆さん英語で医療単語を覚えているため、普段はタイ語の回診を英語で行ってくださりました。

私が一番驚いたことは、タイの学生と我々の実習内容と忙しさの違いでした。タイの学

生は、日本の学生よりも行うことができる手技の幅が広く、日本の研修医と同程度の臨床手技を専攻医や研修医の指導の下行っております。毎日、実習は朝早くから始まり、担当患者さんの処置などを行う責任があります。また、当直もあり、翌日も一日実習をしなければならないなど、とても忙しい様子でした。大学によっては、丸一日休みの休日は高学年になると年に二日しかないほどだそうです。

学習の様子については、四年生の学生の小児科の定期試験も見せていただきましたが、日本の選択式の試験とは違い、症例に対する対応を記述で答えさせる問題形式であり、4年生の試験とはいえとても実践的であることに驚きました。また、定期試験は2週間ごとに1科目ずつあるそうで、CBT、OSCEのような公的な試験は3,5,6年時の3回受けるという事でした。加えて、実習で担当した症例が勉強になっているため、6年時に受ける国家試験に対する勉強は数日のみで足りたと言っている学生もあり、その違いに驚かされました。一部の生徒は、将来の米国での留学に備えて、USMLEの勉強もっており、普段の授業で医療英単語に十分慣れ親しんでいることから、受験のハードルが日本より低くなっていることを感じました。

小児感染症病棟での実習では、デング熱やサラセミアなど、日本での実習ではそこまで頻繁に目にする事のない疾患の患者さんも多くいました。タイの北東部では、ソムタムというタイ料理で淡水魚やカニを生で食すことから、肺吸虫の患者数が多く、実習中も胸水中の肺吸虫を専攻医とともに検索する機会があり、新鮮でした。二週目にはサラセミアデーというイベントで、サラセミアの患者さんと塗り絵などを通じて交流をしながら、治療中に関する悩みをお聞きしました。日本より患者数の多いサラセミアの患児やその保護者の方との交流で、わが子を思い、疾患について勉強する保護者の方の姿勢に、医療者となる立場から背筋が伸びる思いでした。

病院の医療設備については、事前情報の通り日本とほぼ変わらないくらい発展していました。NCIU など、一部の新しい病棟の設備は、本学のものよりも最新の機械であるように感じました。また、現在海外からの富裕層向けの病棟も完成間近であり、タイで発展しつつある医療ツーリズムにタマサート大学も注力していることが分かりました。

タイの医学生や専攻医の方々とお話しする中で、学生は卒業後、インターンとして地方の病院で働く義務があり、そういった地方の医療機関には必ずしも十分な教育体制があるわけではないため、前述の様に学生のうちに臨床で働くことができるように教育しておく必要があるという背景を知りました。日本では、多くの初期研修病院で研修医の教育体制や人員が確保できるため、学生実習に違いが生じるのではないかと気が付きました。

(2) 今後の展望

今回の留学では、新生児・小児科、小児外科についての知識や、病棟実習で得た技術だけではなく、熱心に教えて下さる先生方、そして優秀な海外の生徒の皆さんの医学に対する情熱を学び、とても良い刺激となりました。

また今回、使用する薬物の投与量についての知識不足や医療単語など、まだまだ自分に

足りないと感じた課題が多く見つかったため、卒業後また留学の機会に恵まれた時により充実した留学となるようさらなる成長を遂げることを決意しました。

(3) 後輩へのメッセージ

タマサート大学の医師や看護師、ならびに職員の方々は皆さんとても親切に、私たちの実習をサポートしてくださります。加えて、タイ語のカンファレンスでも現地の医学生が親切に英語で解説してくれました。また、積極的に自分の興味あること、見学したいことを伝えれば快く見せてくださります。私自身も将来は外科志望であるため、小児科の先生方に小児外科のオペ見学をさせていただけないかと初日からお願いしたところ、最終日にその機会を設けていただきました。皆さんもぜひ、アジアの他国に目を向けて、その違いを肌で感じてください。必ず良い経験になると思います。

● 謝辞

この度、このような貴重な機会をくださり、留学に向けて多大なるご支援をいただきました医学教育推進課のスタッフの方々、今回の派遣を受け入れてくださったタマサート大学の先生方、スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。また、留学に際して多大なご支援をくださった俱進会ならびに医学部後援会の皆様に心から感謝申し上げます。

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 Y. H. 学年（留学当時） 5 年

実習期間 2024 年 3 月 18 日（月）～ 2024 年 3 月 29 日（金）

留学先機関名 タマサート大学

1 プログラム内容について

- (1) 参加した留学プログラム
・海外クリニカル・クラークシップ

2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	羽田空港	10:35	現地着	スワンナプーム国際空港	15:40
	経由地着			経由地発		
復路	現地発	スワンナプーム国際空港	14:50	日本着	羽田空港	22:30
	経由地着			経由地発		
到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額	移動手段（ 車での送迎 ） 所要時間：（ 90 ）分 金額目安：（約 0 ）円・（ ）ドル・ユーロ・（ ）					

3 宿泊先について

滞在期間	2024 年 3 月 16 日～ 3 月 30 日		
宿泊タイプ	寮	1 人部屋 共有設備：（ 冷蔵庫 ）	
	ホテル・アパート	人部屋	
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生（ ）人	
	Airbnb・シェアハウス	人で共同	ホストの同居；あり・なし 共有設備： （ ）
実習場所までの距離	（ バス ）で（ 15 ）分		
宿泊費用	21580 円 / 14 日間		
住所	[Redacted Address]		

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1 週間

項 目	金 額	内 訳
食 費	7000 円	
学用品購入費	0 円	
交 通 費	0 円	
そ の 他	2000 円	電気・水道代
合 計	9000 円	

(2) 派遣先周辺地域の治安等

私たちの宿泊した TU dome は医学部キャンパスからバスで 15 分ほどの場所にあった。医学部キャンパスに隣接した寮もあるが、個室を希望したことから寮費が低額であることを考慮して TU dome を事務の方が手配して下さった。ショッピングモールのようになっていて、道路沿いには屋台が並んでいた。人通りは多く、治安の悪さは感じなかった。ただ野犬が 2、3 匹いたので踏みつけないように注意する必要がある。大学周辺も治安はよかったが、交通量が多いのでそこは要注意であった。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）

初日に寮費 5200 バーツ＋電気・水道代 5382 バーツを現金で渡し、最終日に電気・水道代のデポジットが 4000 バーツほど戻ってきた。冷蔵庫は共用スペースに置いてあったが使わなかった。寝具は 1100 バーツで事務の方が用意してくれて、最終日に破棄してもらった。洗濯は寮のコインランドリーを使った。冷房で乾燥するので小型の加湿器を持っていくとよい。

5 実習について

実習診療科と主な内容（ 肝・胆・移植外科の observation ）	
実習内容	① タマサート大学で開催された外科学会への参加
	② 手術見学
	③ Admission report の見学
	④ 内視鏡見学
	⑤ 回診の見学

(1) プログラム初日の行動

8 時半に集合し、10 時まで待機。外科部長の先生に挨拶し、肝胆脾の先生を紹介していただいた。胆嚢摘出術と脾頭十二指腸切除術を見学し解散。

(2) 実習詳細

2 日目は外来見学の予定であったが先生方が忙しく、また診察がタイ語であるため head-neck-breast 外科の手術を見学することとなった。乳頭線維腺腫摘出術と結節性甲状腺腫摘出術を見学、後者の手術は術野に入らせていただいた。3 日目はタイミングよくタマサート大学で外科学会が開催されていたため全日そちらに参加した。内容は神経ブロックでの鼠蹊ヘルニア手術に

ついでにレクチャーとワークショップであった。ワークショップでは模擬患者と遺体でエコー、シミュレーターで神経ブロックの穿刺を体験した。4日目も外科学会に参加した。内容は腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術と乳癌化学療法についてのレクチャーであった。5日目は Sleeve gastrectomy と duodenal mass resection の手術を見学した。6日目は生体腎移植の手術を見学した。7日目は laparoscopic indirect hernia の手術を2件と、シングルポートの腹腔鏡下胆嚢摘出術を見学した。8日目は学生が行う admission report (入院患者の症例報告)を見学し、その後内視鏡室で大腸内視鏡やERCPを見学した。9日目はオンライン抄読会と回診に参加した。10日目は8時半に集合して事務の方と記念撮影、その後胆嚢摘出術を術野に入って見学した。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	6:30	7:30	8:00	9:00	13:00	13:30	16:00	16:30	18:00	20:00	23:00
行動	起床	出発	朝食	手術 見学	昼食	手術 見学	実習 終了	帰宅	夕食	自宅 学習	就寝

(4) 休日の過ごし方

事務の方がアユタヤに連れて行ってくださった。市場で買い物など。

(5) 留意事項等 (予習しておくこと、困ったこと、持参するとよいもの等)

上級医は手術室以外では見かけず、レジデントも病棟業務で忙しいため、ほとんどの時間を現地のエクスターン(医学部6年生)と共に過ごした。外科を選択すると手術見学がメインとなるが、手術室がおそろしく寒いので長袖のアンダーウェアを持っていくと良いと思う。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

留学で最も良かった点は、現地の6年生と交流ができたことである。タイの医学部6年生は extern と呼ばれ、日本の研修医のような生活をしている。extern は朝7時から夜7時まで実習、回診が長引けば夜10時くらいになることもあるらしい。朝の夕方の回診では創部の処置を行い、日中の手術では全例で術野に入り、尿カテーテルの挿入などを担当する。土日も朝の回診があり、休みは duty work が終わる午後のみだそう。当直実習が週に2回あり、当直明けも普通に実習がある。休日は年に1日あるかないかとのことだった。本当に給料をもらってもいいほどの働きぶりだと感心した。この生活は extern だけでなく5年生も同様であり、日本の初期研修を無休無給でやっている感じだと思った。私は外科を回っている extern の12人と一緒に行動していたが、彼らは既に国家試験に合格しているため、知識が盤石で質問をするとなんでも解説してくれた。英語は全ての学生が話せるわけではなかったが、講義のスライドは英語で、医学英語の読み書きは圧倒的にタイの学生の方が優れているように感じた。英語を流暢に話せる学生も多くいたため、タイ語で行われているカンファレンスの内容を英語で通訳してもらって過ごしていた。

実習の内容のほとんどは手術見学で、半分ほどの手術で術野に入ることができた。

Minimal Invasive Surgery (MIS) の手術を見学することが多く、腹腔鏡下胆嚢摘出術や腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を数多く経験した。他にも肝胆膵グループの膵頭十二指腸切除術や乳腺甲状腺グループの結節性甲状腺腫摘出術も見学できた。日本ではあまり見かけない袖状胃切除術や生体腎移植も見学することができた。手術室の設備はYCUと同等かそれ以上で、手術に関しては日本と同じクオリティで行われているように感じた。看護師やexternが常にスマホをいじっていることや、患者の個人情報もLINEでやり取りしていることなど、カルチャーショックを受けた場面もあった。手術以外にも内視鏡見学、学生による症例検討会、回診などを経験することができた。初週の水曜日と木曜日はタイミングよく外科学会が開催されていたため、ワークショップで神経ブロックなどの手技を経験することができた。

(2) 今後の展望

タマサート大学の学生は医学知識、手技、医学英語のすべてにおいて私より高いレベルにあった。もちろん私の実力不足によるところも大きいですが、この圧倒的なレベルの差は日本とタイの教育体制の違いによって生じていると思う。タイの医学生は卒業後に地方の病院で勤務しなければならない、そこには日本の初期研修のような教育体制があるわけではないため、学生は卒業までに医師として働ける最低限のレベルまで知識と手技を身につける必要がある。そのため日頃から採血やドレーン留置など基本的な手技はルーティンでこなし、症例報告ではどう対応すればもっと良かったのかというところまで深く議論し、医師として独り立ちできるように努力している。日本の医学部はタイと比べると手技や臨床推論の訓練をする時間が少ない。医学教育の方針が異なる以上、経験値に差が出ることは仕方のないことだが、同年代の学生に実力差をつけられていることには悔しさを感じた。今後は初期研修の2年で手技と臨床推論の訓練を積んで、タマサート大学の友人たちにも負けない臨床力を身につけたい。また日本は腹腔鏡手術が普及していて、大学や研修病院で腹腔鏡の練習ができるが、この点はタイでは見られない長所であると思うので、早い段階から積極的に練習をしていきたい。学生のうちから研究に携わる機会があることもタイにはない長所だと感じた。シンガポール国立大学とタマサート大学でアジアの医学生のレベルと、国ごとの医学教育の違いを知ることができたので、将来自分が学生を指導する立場になった時はこれらの経験を教育現場にフィードバックしていきたい。

(3) 後輩へのメッセージ

現地の医学生は医学を英語で学ぶことに慣れているので、タイ語の講義などは英語に通訳してくれると思う。しかしこちらが医学英単語を知らないと話が通じないため、最低限の医学英単語は覚えていくと良いと思う。外科で実習をするのであれば肝胆膵1週間と救急外科1週間のように、2つグループを選択した方が学びは多いかもしれない。実習は手術見学がメインとなるので、持ち患のプレゼンや外来見学をしたい人は内科を選択した方がよいかもしれない。学生から上級医まで、みな英語は通じるのでタイ語ができなくても問題ない。タイの伝統医療に関しては、医学部からは独立した分野なので留学中に学ぶことはむずかしそうだった。

意外にタイは医療先進国で日本と比べても進んでいる点がたくさんあるので、海外の医療を見てみたい人、英語で医学を学んでみたい人にはおすすめの留学である。

18:00					23:00	24:00
交流 現地の 学生との					就寝	

(4) 休日の過ごし方

過去に横浜市立大学に留学に来たことのある現地の女学生にお願いしてバンコク市内やアユタヤを案内してもらいました。現地の学生とのお互いの情報を交換しながらの観光は、非常に中身の濃い有意義なものになりました。

4 感想等

今回の留学の自分の中での位置付けは、医学の勉強というよりも、医療の勉強でありました。母国以外の医療に触れることで今まで自分にはなかった着眼点やモノの見方を得ることができ、日本の医療をまた別の角度から見られるようになったのではないかと思います。

①留学を通じて感じたこと

留学前、今回の留学は『タイの医療について学ぶ』ために留学だと思っていましたが、いざ現地で実習を行ってみると、タイの医療のことだけでなく、『世界の中での日本の位置付け、日本人に対するイメージ』についても学ぶことがたくさんあるということに気がつきました。これからの医療において、日本がどう変わるべきか、世界の中でどのような役割を果たすべきかということについて、もっと自分も真面目に考えていく必要があると感じました。

②今後、この経験をどのように活かすか

今回の経験を通じて、自分の中での海外留学のハードルが少し下がったような気がします。私は将来、海外で公衆衛生学を学びたいと思っており、今回の経験は、次なる留学の糧になると信じております。

また、今回タイの医学教育について見習うべき点をいくつか見つけたので、自身が教育者となったときにそれらを活かしたいと考えております。

③後輩へのアドバイス

留学を有意義なものにするには、英会話力は必須であると思います。英語を上手に使いこなせれば、現地の方々との距離をより縮めることができますし、コミュニケーションを通じてより深く情報を得ることができます。

医学の勉強に時間を取られて英語学習に時間を割くのは大変だと感じる方も多いと思いますが、毎日ほんの数十分英語に触れるだけでもそれなりの効果は得られと思います。私のように英語に自信がないという方は、是非医学の勉強のリフレッシュだと思って英語学習にも手を出して見てください。

(3) 一日のスケジュール(月～金)

6:00						12:00					17:00
	起床	参加 病棟・カンファレンス					講義があれば参加				実習終了

18:00						24:00
図書館などへ移動	夕食				就寝	

(4) 休日の過ごし方

アユタヤやバンコクへ観光に行きました。公共交通がないに等しいので、タマサート大学の事務スタッフのブンソンさんや留学で知り合ったタイの友人に相談するといいかもかもしれません。

4 感想等

① 留学を通じて感じたこと

病棟でお世話になった6年生のタイの学生は研修医に相当する環境下で訓練されており、勉学に対する勤勉な態度や向上心には大変感銘を受けました。タイでは医療資源や人員配置に不足が見られますが、それを補うための実践的な医学教育を行うために熱心な教育体制がしかれておりました。たいていの学生や先生方が英語で会話できることにも驚かされました。

② 今後、この経験をどのように活かすか

残り一年となった学生生活において、できうる限りの医療知識を習得し、スムーズに研修医生活へ活かせるよう邁進いたします。今回得た医療英語の知識を風化させないよう、多くの英語資料など活用していきたいと思っております。

③ 後輩へのアドバイス

日本よりも実践的な医学教育が行われており、同学年の学生としてこうも違うのかと実感するには大変いい経験となります。英語が聞き取りにくかったり、タイ語がメインの場面が多いので、積極的に質問にいけるといいと思います。

生活に関して、ネット環境が皆無なので、各自用意が必要です。寮の部屋に特に支障はありません。食事が問題となりますが、夕食はキャンパス外に食べに出ざるを得ないと思います。レストランや屋台はタイ語のみなので、苦手なものが多い方は注意が必要です。